

65、カルタで古文単語は記憶しやすくなるのか

要旨 古典分野の苦手意識を軽減するため、その原因の一つである古文単語の暗記に着目し、従来の単語帳を使用した学習方法ではなく、新たな学習方法としてカルタを考えた。そして、古文単語の記憶に古文単語帳を用いた場合とカルタを用いた場合とでテストを行う対照実験を行い、結果を考察した。その結果、古文単語帳を用いた場合とカルタを用いた場合で、テストの得点の伸び率にあまり変化がないことが分かった。

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

近年の大学入試方法や教育課程の変更により、思考力・判断力・表現力の育成が重視されている。特に古典分野では、現代語とは異なる語彙や文法の理解が必要であり、多くの生徒が苦手とする理由の一つに「古文単語」の学習が挙げられる。現在、学校教育では単語帳による暗記をはじめとした様々な学習法が行われているが、記憶の定着や文脈理解との結びつきに課題を抱えることも多い。こうした背景のもと、この研究では古文単語の学習方法に着目し、より効果的な習得方法の可能性について検討した。

1.2 リサーチクエスチョンと先行研究・事例

私たちは、古文単語の学習方法が現在、主に単語帳に依存している実態に着目した。実際、多くの学習者が古文単語の意味や用法を覚える際、単語帳を繰り返し読む方法を実践しており、その効果については広く信頼されている。一方で、単語帳による暗記は、単調で機械的な作業になりやすく、学習意欲の低下や記憶の定着率のばらつきといった課題も指摘されている。

このような状況を踏まえ、私たちは「単語帳による暗記を超える、より効果的かつ記憶に残りやすい学習方法は存在するのだろうか」という問いに興味をもった。とくに、ゲームや物語など、文脈や感情を伴った学習方法が記憶の定着に与える影響について検討する価値があると考えた。

そこで本研究は、従来の単語帳による暗記法と比較して、より深い理解と記憶の定着が期待できる学習法について考察を行うこととし、リサーチクエスチョンを「単語帳による暗記より記憶の定着がよい学習法はあるのか？」と設定した。

1.3 研究の目的・意義

本研究における目的は、古文単語のより効果的な習得方法を見つけ、苦手意識を軽減することである。この目的が達成されることにより、古典分野に対する抵抗感が少なくなり、勉

強の一助になることを期待した。

1.4 仮説とその根拠

記憶の定着に関する知見として、L・ケーヒルとJ・L・マクガウの研究（1995）を取り上げる。その研究では、強い感情的な刺激が記憶の定着に与える影響について調べており、感情的な刺激は記憶に影響があることが示されている。ここから、感情に紐づいた学習法ならば単語帳を眺めるより記憶の定着がよいのではないかと考え、「カルタによる学習は単語帳による学習より記憶の定着が良い」という仮説を立てた。カルタは、札を早く取ることへの達成感や、取り負けたときの悔しさ、他者と競い合う中で生まれる緊張感や喜びなど、さまざまな感情を伴う活動である。そのため、こうした感情の動きが記憶の定着を促進する可能性があり、カルタを用いた学習が単語帳より効果的であると考えられる。

2 研究方法1

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

本研究の目的は、古文単語の学習において、単語帳よりも記憶の定着に優れた方法があるのかを明らかにすることである。リサーチクエスチョンは「単語帳による暗記より記憶の定着がいい学習法はあるのか？」であり、これに対して「カルタによる学習のほうが記憶の定着に効果がある」という仮説を立てた。

実験では、古文単語のテストを最初に行い、6人の被験者を単語帳グループとカルタグループに3人ずつ分けた。単語帳グループには1日10分の学習を、カルタグループには2日に一回カルタを使った学習を1週間行ってもらい、終了後に再び同じテストを実施して記憶の定着度を比較した。

この方法を採用した理由は、2つの学習方法による効果の違いを定量的に測定できることである。ただし、少人数であることが結果に影響する可能性もあり、一般化には注意が必要である。

この研究を通じて、古文単語学習における新しい学習法を探り、単語帳以外の学びの選択肢を提示することを目指している。

2.2 研究と分析方法

古文単語の記憶に古文単語帳を用いた場合とカルタを用いた場合とで対照実験を行った。まず、被験者の6人に50単語の小テストを行った。次に、6人をAとBの2グループに分け、以下のように一週間勉強してもらった。

Aグループ：毎日10分単語帳で勉強

Bグループ：2日に1度カルタで遊ぶ

※カルタは以下の画像のように、一方は現在の意味、もう一方は古文単語と漢字を記載したものを作成したものを使用した。

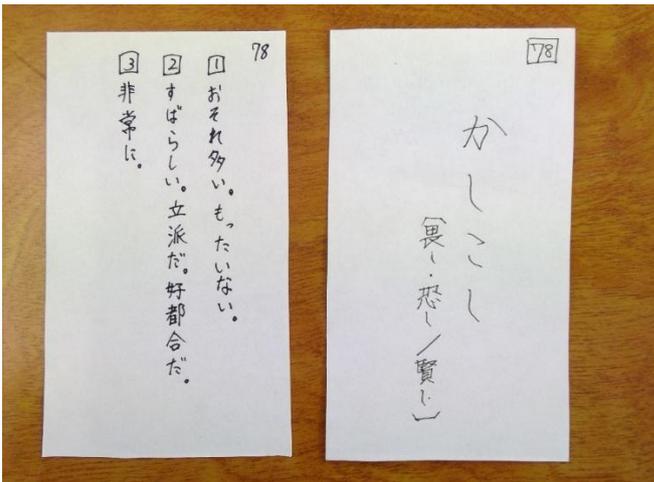
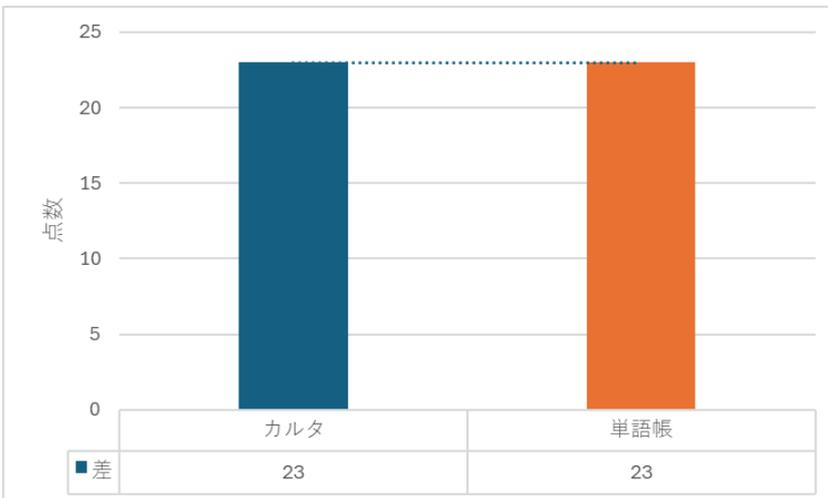


図1 カルタの札

そして、一週間後再度同じテストを実施し、その点数を始めに行ったテストと比べた。

2.3 結果

下記に、それぞれのグループにおける平均点の推移を示したグラフを示す。グラフの縦軸は得点、横軸は回数を表している。グラフを確認すると、カルタグループおよび単語帳グループの得点の増加幅はそれぞれ約 23 点であり、両グループにおいて得点の増加量に大きな差は見られなかった。また表より、個人で見ても、両グループの得点は全員に 10～20 点程度の上昇が見られた。



グラフ1 カルタと単語帳の点数差

カルタ	1回目	2回目		単語帳	1回目	2回目
α	11点	45点		A	13点	47点
β	23点	47点		B	15点	25点
γ	14点	25点		C	15点	40点

表1 テストの点数

2.4 考察

上記の結果から、単語帳を用いた場合とカルタを用いた場合のいずれにおいても、一週間程度の記憶定着には同程度の効果が認められたが、単語帳を超える効果は得られなかったことが明らかとなった。この同程度の効果が示された要因として、被実験者が他者と対話を行うことによって「楽しい」という感情的な刺激が記憶に影響を与えた可能性が考えられる。また、単語帳による学習法を超える効果が得られなかった理由として、感情的な刺激が長期記憶において重要な役割を果たすことが先行研究で示されているが、実験期間が一週間という短期間であったため、その効果が十分に発揮されなかった可能性があると考えられる。

4 結論と今後の展望

4.1 結論

カルタを用いた学習は、単語帳を用いた学習と同程度の効果が得られたため、記憶の定着という観点からは、単語帳による学習を上回るとは言えない。よって、より良い学習方法であったとは言えない。

一方で、カルタを用いた学習は単語帳と同程度の効果があるため、古典分野に対する抵抗感を軽減する点で大きな意義がある。したがって、古文単語学習において、単語帳に代わる学習方法として、カルタの活用が提案できると言える。

4.2 今後の展望

被験者数および実験期間を変更し、長期記憶への影響を調査することによって、カルタを用いた学習法が記憶に与える効果をより正確に評価したい。また、カルタに絵や例文を追加することで、学習効果がさらに向上するかどうかについても検討する必要がある。

5 謝辞

本研究に関して、実験に参加していただいた方、研究に助言していただいた先生方に感謝申し上げます。

6 引用文献・参考文献

L Cahill, & L McGaugh(1995) A novel demonstration of enhanced memory associated with emotional arousal